

(21)

杭州

三十一

S 161515 7442

REEL No. A-0853

0414

アジア歴史資料センター

機密第一一〇號

昭和八年十一月十一日

在杭州領事館事務代理 松村雄藏

外務大臣 廣田弘毅殿

江西省共產黨軍狀況調査員ノ報告ニ關スル件

江西省内ニ於ケル共產黨軍情況視察ノ爲メ密派セラレタル浙江省黨部委員葉湖中ハ去ル十一月六日午前浙江省政府大講堂ニ於テ大略別記ノ如キ視察報告ヲ爲シタル趣ナリ

同人今回ノ視察地ハ主トシテ江西省中當浙江省ニ隣接スル玉山、廣豐ノ兩縣ニ過キス且亦内容直チニ眞ヲ措キ如何カト思ハルル點ナキニアラサルモ兎モ角最近江西省ニ足跡ヲ印シタル責任者ノ耳目ニ觸レタルモノトシテ御參考迄報告ス

本信寫送付先 在支公使、在上海總領事、在南京總領事

在九江領事館事務代理

外務省

S 161515 7443

十一月六日浙江省政府講堂ニ於ケル葉省黨部

委員ノ江西省共產黨軍狀況視察報告要旨

先ツ浙江省内江西省境方面ノ情況ヲ一言センニ開化縣ハ先般共匪ノ襲來（譯者註、九月二十九日附大臣宛拙信機密第七六號御參照）ヲ受ケテヨリ人心今尙ホ不安、其ノ南方ノ常山縣ハ稍ヤ平穩、ソレヨリ更ニ南方ノ江山、及福建省ノ浦城兩縣ハ江西省ノ廣豐縣ト聯合シテ主トシテ農民ヲ以テ組織セル江廣浦聯防隊カ保安隊ト協力シテ共產黨軍ノ掃蕩並ニ侵入防止ニ力メツツアリ右聯防隊ハ去ル十月十二日廣豐縣下十五都地方盤居ノ共產黨軍支隊ヲ攻撃シテ銃器、爆裂彈旗等ヲ押收シタルカ其ノ際逮捕セル同縣ソヴィエト軍政部長ノ自白セルトコロニ據レハ共產黨軍ノ資金蒐集ハ大體次ニ述フル方法ニ依ルト云フ

一、人質回贖金ノ收入。廣豐縣「ソヴィエト」第三區ニ於テ最近半年間ニコノ方法ニテ得其ノ内閩北分會ニ納付セル金額ノミニテ

外務省

S 161515 7444

モ一万六、七千元以上ニ達セリ
 二、營業稅ニヨル收入。營業稅トシテ百分ノ二十五ノ外ニ商業稅トシテ同率即チ合計收入ノ半額ニ相當スル高率ノ稅ヲ賦課ス而シテ二千元以上ノ資本ヲ有スルモノハ殷商ト見做シ右稅ヲ課ス、尤モ有識階級及中小商工業者等ニ對シテモ何ントカ名目ヲツケテ搾取スル例トス
 三、臨時借用、借用ト稱シテ富商ヨリ金錢、金銀細工、寶石類ヲ強制徵收ス、勿論絕對ニ返還セサルモノナリ
 四、不換紙幣ヲ濫發シテ現銀ヲ回收、ソビエツト中央政府ハ最近三百萬元ノ公債ヲ發行シ所屬各縣ニ對シ一縣ニ就キ十五萬元ノ現銀回收方ヲ命シ來レリ、江西省中東北方地方ハ殊ニ現銀不足ナリ
 江西省ハ元來磁器、茶、豆、紙、竹、木材等ヲ他省ニ移出シ米穀類ヲ移入セルモノナルカ目下コノ出入共杜絶セル爲メ地方民ノ困憊其

外務省

S 161515 7445

ノ極ニ達セリ共產黨軍ノ苦ミ居レルハ實ニコノ食料問題ニシテ食鹽ノ缺乏殊ニ然リトス
 前廣豐縣ソビエツト政府主席周元璜ハ上海某大學出身ニシテ嘗テ江西省弋陽ニ赴キ方志敏ノ祕書トナリ閩北ヨリ轉シテ廣豐縣ソビエツト政府主席トナレリ、昨年浙江省江山縣ノ二十八都(地名)ヲ襲撃セン共匪ハ其ノ配下ナルカ共產黨總帥朱毛ニ改組派ト讒訴セラレ遂ニ死刑ニ處セラレ其ノ一味百餘人ノ大部分亦殺戮セラレタリ蓋シ共產黨内部ニ在リテ有リ勝ナ勢力争ヒノ犠牲トナリタルモノナリ
 昨今江西省内ノ不良分子ハ共產黨員ノミニ限ラレタルモノニアラス所在ニ大道會、大刀會、姊妹會、兄弟會、吊錢會、同心會、紅鎗會健康會、反共團、齊心會、八仙會、九仙會ヲ始メ反共産的ト思ハル劇共團、破共委員會、鎮赤委員會、改組派、A B團、社會民主黨等々種々雜多ナ團體アリテ夫々狂暴ノ限リヲ盡シ居ル次第ナリ
 廣豐縣民ノ共匪ニ對スル感想ハ共匪カ其ノ宣傳ニ反シ地方民ニ對シ

外務省

S 161515 7446

苛欽誅求言語ニ絶スル暴虐行爲ヲ敢ヘテシツツアルヲ以テ孰レモ痛恨セサルハナク率先彼等ノ御先棒トナリタル一般青年ハ其ノ早計ヲ改過シ居レリ云々

は(2)

外務省

8.9
S 161515 7447

REEL No. A-0853



アジア歴史資料センター

参考

S

161515

7448

REEL No. A-0853

0418

アジア歴史資料センター

外務省

「國民革命ニ依ツテ國民黨ヲ顛覆スルコトハ反帝國主義民族革命戰爭勝利ノ先決條件ナアル」

滿洲事變ニ際シ「コミンテルン」カ
中國共產黨ニ與ヘタル指令中ヨリ

7.6
S 161515 7450

は(イ)

外務省

「中南支地方共產軍及討伐部隊對抗狀況」圖説明書

亞細亞局 第二課

7.4
S 161515 7449

は(イ)

支那各地共產軍部隊

歐米亞課

昭和七年八月一日

記

記

歐米亞課

(分類 6.15.4)

「國民黨官僚軍閥ハ常ニ無抵抗主義ヲ以テ之ニ
 投降シ濟南事件ヨリ最近ノ萬寶山、朝鮮、青島
 中村事件ニ至ル迄民族ノ利益ヲ賣リテ顧ミズ帝
 國主義ノ打倒ハ其ノ走狗タル國民黨ヨリセサル
 ベカラス我カ蘇維埃區域ノ工農兵ハ現在分散セ
 ル蘇維埃區域ヲ統一シ偉大ナル蘇維埃共和國ノ
 建設ニ努力シツツアリ」

昭和六年九月廿五日

滿洲事變ニ際シ中國各地蘇維埃政府ノ
 「全國民衆ニ告グルノ書」ヨリ

外務省

7.4 S 161515 7451

目次

一 安徽方面
 二 漢口方面
 三 江西方面

一 頁
 二 頁
 五 頁

外務省

7.4 S 161515 7452

一 安徽方面

客年長江水災當時ヨリ安徽省内ニハ抗日救國ニ藉ロシ中國共產黨ノ赤化運動騒々サレツツアリシカ上海事件當時ヨリ共產軍ノ猖獗漸ク甚シク之カ討伐ニ向ヘル陳調元ノ第一路軍ハ四月中旬許繼勳曠繼勳軍ニ破ラレ第四六師、第五五師及警備旅ハ大敗シ大部分共產軍ニ戻返リ五月中旬ニハ六安、正陽關、壽州、霍邱ノ一帶占領サレ別動隊ハ津浦線附近ニモ出沒シ長江ノ航行亦危険ナラントセリ、中央ニ於テハ王均ヲ總指揮トシ第一師、第二師、第四師、第七師、第九師、第一二師、其ノ他ノ部隊ヲ以テ之カ討伐ヲ爲サシメタル結果五月末ニ至リ舒城、六安ヲ克服シ七月中旬ニハ霍邱モ回復セリト稱セラル一方曠繼勳軍ハ英山ニ集中シ湖北ニ方向ヲ轉

は(イ)

外務省

161515 7453

一 漢口方面

シタル爲同方面ノ危機ハ一先ツ免レタルモノノ如クナルカ共產軍ノ勢力ハ陳調元其ノ他ノ戻返リ部隊ノ加入ニ依リ著シク増大セリト認メラル(兵力約八萬乃至十萬ト稱セラル)尙敗退セル第一路軍ハ淮陰ニ移サレ整理スルコトトシ海州ノ第二五路軍交代シテ合肥ニ移ルトナリ

は(イ)

外務省

161515 7454

武漢綏靖公署主任何成濬ハ全省ヲ五區ニ分チ四川軍ノ來援ヲ求メ自ラ省主席ヲ辭シ專ラ剿匪事務ニ努メタルモ財政不如意ノ爲僅カニ賀龍軍ト贛總助軍トノ合体ヲ阻止シ得タルニ過キス中央ニ於テハ第八八師、第五四師及第三師ヲ派撥セルモ就中贛總助軍ノ勢強ク斬水方面ノ第三三師ハ五月末劉炳炎及李燦ノ共產部隊ニ攻撃サレ敗退シ其ノ一部ハ共產軍ニ戻返リ羅田、廣濟、麻城各縣城ハ何レモ李燦、郭樹勛、許繼慎、曹學楷等ノ部隊ニヨリ占領サレタルヲ以テ中央ハ更ニ第四七師ヲ増派セルモ六月下旬紅軍徐謙龍ノ部隊ハ之ヲ擊破シ斬水ヲ占領スルニ至リ更ニ贛總助軍下ノ第六軍ハ平漢線ヲ脅シ又賀龍軍ハ沙市ノ東南ニ於テ四川軍第三路軍ヲ擊破スルニ至レリ

外務省

S 161515 7455

豫鄂皖三省剿匪總司令ノ任命

依テ蒋介石ハ更ニ第一〇師、第一四師、第八三師ヲ平漢線ニ配備セリ之ヨリ五月二十一日豫鄂皖三省剿匪總司令ニ任セラレタル蒋介石ハ廬山ニ於テ重要會議ヲ催シタル後六月二十八日漢口ニ到着セルカ湖北、安徽、河南ノ三省剿匪計畫實行上六月三十日附ヲ以テ左ノ通り發令セリ

中路軍總指揮 蔣中正（軍事委員長）兼任
 副指揮 劉峙（開封綏靖公署主任）
 右翼軍總指揮 李濟（豫鄂皖三省剿匪副司令）兼任
 副指揮 王均（津浦鐵路警備司令）
 左翼軍總指揮 何成濬（武漢綏靖公署主任）
 副指揮 徐源泉（湖北全省清鄉督辦）

外務省

7.6 S 161515 7456

時局ニ對
スル中國
共産黨ノ
方針

5

江西方面

其ノ後蔣介石ハ討伐三分政治七分ノ割合ニテ剿匪就中招撫ニ努メ
ツツアルモ目下ノ處未タ豫期ノ效果ヲ奏セス却テ鄂東、平漢沿線
鄂南、鄂中ノ紅軍ハ寧口進出ノ状態ニアリ
尙剿匪軍不振ノ重大原因ノ一ツハ財政極度ノ逼迫ニシテ之カ財源
捻出ニ政府ハ腐心中ナリ

滿洲事變後共産軍カ政府軍ト妥協シテ抗日ニ從事スヘキヤ否ヤニ
就テハ各種ノ努力國民政府内ニ於テ行ハレタルモノノ如キモ中國
共産黨ハ逸早く外來ノ帝國主義ノ打倒ニハ從來受身ノ立場ニアリ
テ斯ル形勢ヲ顧致セル國民政府ノ打倒ヲ先決問題ナリトシ時局ヲ
利用シ強大ナル「ソヴィエツト」區域ノ建設ヲ試ムヘキ旨ノ方針

外務省

161515 7457

中華蘇維埃
共和國
ノ成立

6

ヲ決定セルカ(冒頭標語参照)右決定ハ其後「コミンテルン」ノ
指令ニヨリ裏面キサレタリ一方蔣介石ハ滿洲事變後日本軍ニヨリ
上海、南京ノ政略セラレンコトヲ恐レ逸早く主力軍ヲ河南ニ集中
スルト共ニ廣東側ト妥協シ其ノ結果江西ニ於テ剿匪中ナリシ第十
九路軍ヲ上海方面ヘ移駐スルニ至リタルカ茲ニ蔣介石ノ第三回ノ
討伐ニヨリ贛南ニ追ヒ込メラレ危地ニ陥レル共産軍主力朱毛軍ハ
前掲中國共産黨及「コミンテルン」ノ方針ヲ體シ十一月七日露國
革命記念日當日瑞金ニ於テ第一回全國代表大會ヲ開キ中華蘇維埃
共和國臨時中央政府ヲ建設スルニ至レルカ其ノ模様左ノ如シ
當日福建、湖南、江西、湖北其他各地「ソヴィエツト」政府及紅
軍ノ代表二百九十名參集シ朝紅軍ノ檢閲ヲナシ午後「ソヴィエツト」

外務省

161515 7458

秘

電信寫

昭和12 二一九八 暗 南京 五日發 本省 二月五日發着 亞

林外務大臣

第八九號

川越大使

西安方面ノ狀況ニ付于右任ハ五日清水ニ對シ左ノ通り語レル趣ナリ
 一、西安事件解決ニ付テハ中央ハ依然東北軍ニ對スル分化工作ヲ進メ
 ソソアル處去ル二日孫銘九等ノ過激分子ハ楊虎城宅ニ於テ會議中
 ノ張、楊部將領連ヲ包圍シテ中央反對ヲ迫リ當時楊虎城ノ説得ニ
 依リ一時退散シタルカ會議ヲ終リテ歸宅セル王以哲西北剿匪總司
 令部參謀處長徐芳同交通處長蔣斌同副長宋學禮等ヲ殺害セル事件
 發生シ前途樂觀ヲ許ササル情勢トナレリ

二、右暴動ノ首魁者タル孫銘九ハ共產黨員ナリヤ否ヤ確カナヲサレト
 モ其ノ言動ヨリ推シ人民戰線派ニ屬スルコト疑ナク元來西安事變
 後人民戰線派ノ連中ハ續々西安ニ入込ミ一方南方ニ於テハ香港ヲ
 中心トシテ活動シ最近種々ノ出版物等モ發行セラレ居レリ
 三、共產軍、三原附近迄進出シ居リ共產黨員ハ頻リニ西安トノ間ヲ往
 復シテ張、楊部トノ聯絡ヲ計リ所謂三位一體（東北軍、楊虎城軍
 及共產軍）ヲ主張シ盛ニ聯合抗日ノ宣傳「ピラ」ヲ貼出シ宣傳ニ
 努メツツアリ同方面ニ於テハ國民黨員ハ退去シ一般住民ノ避難ス
 ル者多ク此ノ儘推移スルニ於テハ共產軍ノ勢力漸次増大スルニア
 ラスヤト憂慮セラレ
 上海大使、北平、在支各總領事ハ轉電セリ
 上海大使ヨリ上海、廣東ヨリ香港ハ轉報アリタシ

S 161515 10387

S 161515 10386

済業ヲ同副司令ニ任命セルカ福建軍ハ無力ニシテ之ヲ如何トモス
 ル能ハス廣東軍モ亦第三軍（李揚敏三ヶ師一獨立師）ヲ福建省境
 ニ集中セルノミニテ容易ニ之ヲ討伐ヲセザリシヲ政府ハ五月二十
 五日第十九路軍ヲ福建ニ移駐スルニ決シ五月三十一日蔣光鼐ヲ駐
 閩綏靖公署主任ニ任命セルカ第十九路軍ハ六月ヨリ七月ニ亘リ移
 駐ヲ開始シ第六〇師及第七八師ハ漳州ニ、第六一師ハ泉州ニ上陸
 シ綏靖公署ハ福州ニ設ケラレ蔡廷鍇ハ其ノ後蔣光鼐ニ代リ七月二
 十六日第十九路軍總指揮並駐閩綏靖公署主任代理ヲ命セラレタリ
 第十九路軍入閩ニ先チ紅軍ハ五月二十八日ヨリ自發的ニ撤退ヲ開
 始セルカ同軍ハ前記諸在中莫大ノ武器及金銀ヲ掠奪シ勢力ヲ増大
 セルモノト認メラル同軍ハ其ノ後六萬ノ兵力ヲ以テ七月始メ余漢

外務省

S 161515 7461

匪ノ廣東軍第一軍ヲ擊破シ大庾、南雄ヲ陷レタルカ陳誠ノ部隊ハ
 中央軍第一一、第一四師其ノ他合計三師（到來ニヨリ廣東軍ハ危
 ク包圍ヲ免レ本軍トノ聯絡ヲ恢復セルカ廣東側ニテハ第二軍（香
 翰屏）ヲ編制ニ派シ大庾、南雄間ニ防禦ヲ施シ之カ對策中ナリ
 尙廣西軍モ第四四師ヲ英德ニ派シ之ヲ支援セル趣ナリ

外務省

S 161515 7462

支那共産軍の近況に就て

支那共産軍の近況に就て

昭和八年四月十三日
陸軍省調査班

支那

支

S

161515 7463

REEL No. A-0853

0425

アジア歴史資料センター

昭和七年七月當班發表の「支那に於ける共產黨の活動」を参照せられたし。

支那共產黨の近況に就て

目次

一	中國共產黨臨時蘇維埃政府の革命新方略決議と共產黨の宣言發表	一頁
二	昨秋以後に於ける共產黨活動の概況	四
三	中國民權保障同盟の組織	八
四	華北共產黨の現況	一〇
五	共產黨討伐の状況	一一
六	蔣介石と共產黨との妥協説に就て	一三
七	支那共產運動の將來	一五

目次

S 161515 7465 2

S 161515 7464

支那共産軍の近況に就て

中支那に於ける共産軍の活動は依然繼續せられ、蔣介石は中央軍の主力を以て専ら之が討伐に任じてゐたが、熱河方面に於ける情勢の變化に伴ひ、中央軍一部の北上を行つた結果、其剿共作戦は自ら一時頓挫を見るに至り、爲に共産軍の行動は稍、活潑となれるが如く、一方蔣介石は其軍隊を北上せしむるに先だち、共産軍と或種の妥協を策したるやに傳へらるゝものがあるが、其確否に至りては未だ明でない。

一 中國共産黨臨時蘇維埃政府の革命新方略決議と共産黨の

宣言發表

昭和七年末中國共産黨臨時蘇維埃政府は、左の如き革命新方略を決議し、各級黨團部に通告した由である。

(一) 軍事方面

支那共産軍の近況に就て

S

161515

7466

S

- 二
- (1) 湖北、河北の紅軍は西北陝西、甘肅方面に向ひ進展し、逐次勢力の擴充を圖る。
 - (2) 江西、湖南の紅軍は東南福建方面に向ひ進展し、沿海各省の占領を圖る。
 - (3) 中央軍事委員會を福建省北部に移し、全力を以て全省の攻略を圖り、以て紅軍發達の根據地とす。
 - (4) 軍事成功後中國臨時蘇維埃政府の對日宣戰の宣言を發表し、日本に向ひ挑戰し、日本の中國に於ける一切の勢力を驅逐し、日本軍が臺灣より進攻せば全勢力を擧げて應戰する。
 - (5) 紅軍々長にして作戰に努力せざる者は免職し、中央軍事委員會より留露學生、或は久しく軍事工作に従事せる軍官を任命して、再び失敗を防止する。
 - (6) 武器軍費を補充して大舉反攻を準備し、國民黨軍との持久戰を圖る。
- (二) 政治方面
- (1) 各省市政治工作者中、政治思想不明或は言行本黨の主張に違反する者には警告を

S 161515 7467

- 發し、或は蘇聯に派遣して訓練し、又は免職或は黨籍を解除す。
- (2) 滿洲事變の機會に乗じ、青年學生及工人等を利用し、猛烈なる反日運動を惹起せしむ。
 - (3) 日貨排斥運動の名義を以て、資本家に對して激烈なる示威を舉行し、日貨商人に限らず流血事件を勃發せしむ。
 - (4) 各省市政治工作者には、多くの留露學生を派遣就任せしめ、或は之をして監視せしむ。
 - (5) 某地が取消派黨員多數にして工作に努力せざる時は、經費の發給を停止し或は全員を免職す。
 - (6) 黨員、團員を問はず、工作を擔任するものにして違反者は黨籍を解除し、成績優秀なるものは表彰す。
- 又中國共產黨は一月十四日政治主席紅軍軍事委員長以下四名の名を以て宣言を發表し、支那共產黨の近況に就て

S 161515 7468

秘

電信寫

昭和12 三六三 暗

漢口 廿一日後發
本省 二月廿一日夜着

林外務大臣

第六五號

最近共產黨ノ蔣介石ニ對スル態度稍異ルモノアル一方官憲ノ共產黨ニ對スル取締モ多少手心ヲ加ヘ居ルニアラスヤト思ハルル節アリ現ニ先般中共中央總書記秦邦憲(博古)來漢シ武昌ニ於テ黨員ヲ集メテ講演ヲ爲シタル際ニモ(二月十二日附機密第一二一號拙稿參照)支那側官憲ハ殆ト之ヲ不問ニ附シタル模様ナリシ處今般當地ノ共產黨員ノ語レル所トシテ當館諜者ノ齎セル所在左ノ通り

一、客年十二月ノ蔣介石西安拘留ハ全ク第三國際ノ指令ニ依ルモノニ

×テ其ノ目的ハ蔣ノ施政方針ヲ改變セシメントスルニアリタルカ蔣ハ周恩來ト會見ノ席上ニ於テ八箇條ノ要求ヲ容レタリ(秦邦憲モ其ノ講演中ニ於テ蔣カ周恩來ト三回會見シ聯合抗日ノ主張ヲ贊成セリト述ヘ居レリ)

三、然ルニ中共中央ノ眞意ヲ了解セサル下級幹部ノ或者ハ暴動ヲ起スニ至リ掠奪殺人ヲ爲シ蔣介石ノ生命ヲモ奪ハントスル者アリ此ニ世間ノ同情ヲ失ヒタルカ右ハ朱德、毛澤東等軍隊指揮者ノ下ニ於テ致ス所ニシテ右兩名ハ第七次代表大會ニ於テ譴責セラレタリ(此ノ點ニ關シ秦ハ言及セサルモ唯紅軍指揮者カ勢力爭ヲ事トシ居ル點ヲ指摘シ居レリ)

三、西安ニ入レル願祝同カ數次共產黨ト折衝ノ結果成レル密約ニ依リ

S 161515

10399

S 161515

10398

中央軍楊虎城軍、四川軍(田頌堯、鄧錫侯部)と相對してゐる。

六

右の共產軍西北進展は、昨年六月以來の中央軍の討伐に依り、舊地盤に於ける活動が困難となつた爲であるが、一面中央軍の勢力薄弱なる地方に對し、新なる「ソウエー」ト「區域を擴大せんとする、積極的な企圖を藏するものと見るべく、其西北進展は蘇聯邦との直接連絡を意味するもので、之が將來は大に注目を要するものと觀られてゐる。

又別に賀龍軍の一部は、漢水上流地區より陝西省東南部に進入したるが如く、昨年十月中旬には約五千の匪軍平利附近に在つたが、一月下旬頃以來湖北西境に歸還しつゝありと傳へられてゐる。加之湖北省西部地方に於ては宜昌附近に進入して剿共に協力中であつた四川劉湘軍の一部が、四川省の内亂に伴ひ省内に引揚ぐるに至つた爲、所々に賀龍の殘軍が擡頭した。就中湖北省西南隅鶴峯地方の賀龍軍根據地方面は共產軍猖獗し、昨年末來巴東、長樂の線以西は其勢力範圍に歸し、且其一部は湖南省桑植方面に進展せんとしてゐる。

面に進展せんとしてゐる。

(二) 江西朱毛及方志敏軍の活動

江西省朱毛軍は、爾他共產軍の見るべき活動無きに反し、昨秋以來終始活動を續けてゐるが、其努力は就中福建西北部地方及南昌方面に指向せられてゐる。

即ち昨年九月下旬方志敏軍は福建侵入を開始し、崇安を陥れ、浦城、建陽に迫つたが、次で十月下旬に至り、朱毛軍の有力なる一部は、黎川、南城方面より福建省光澤、邵武、泰寧を侵し、更に進で順昌に逼迫した。同地方の守備に任じてゐた第五十六師(劉和鼎)、獨立第四旅(周志群)等は之を支ふるを得ず、辛うじて浦城、建陽、順昌、沙縣等を保持してゐる。又朱毛軍は方志敏軍と合體し、更に延平に迫らんとし、福州亦漸く危険を感ずるに至つたが、福建省南部地方に占據して地盤の擴張に専念してゐた第九路軍は、此機に乗じ其一部を北進せしめて之に對せしめた。茲に於て共產軍は第九路軍部隊の北上に先ち、十一月七日頃撤退を開始した。而して朱毛軍の福建進入は、

支那共產軍の近況に就て

七

S 161515 7472

S 161515 7471

「ソウエート」區域疲弊し物資缺乏を來したので、之が獲得を目的としたものと傳へられしてゐる。福建省撤退後朱毛軍は南昌占領の企圖を以て一月初旬金谿を占據し、更に中旬撫州(臨川)を陥落せしめ、目下撫州附近、東郷、餘江、貴溪の線に在る中央軍と相對してゐる。

三 中國民權保障同盟の組織

蘇支復交に伴ひ、昨年末宋慶齡、蔡元培、楊杏佛等發起の下に、中國民權保障同盟なるもの組織せられ、本年一月十七日上海支部を、同三十日北平支部の組織が成立した。上海支部は實行、宣傳、研究、法律各委員會を設けてゐるが、同會の目的とする所は左の如くである。

- (1) 中國政治犯人の釋放に對する闘争、留置、拷問及處刑に對する闘争、就中無名にして無援の犯人大衆の爲の闘争に任ず。
- (2) 政治犯人に辯護及其外の援助を與ふ。監獄の状態を調査し、且中國に於ける民權否

定事實を發表して輿論を喚起す。

- (3) 民權即ち結社、言論、出版及集會の自由の爲の闘争を援助す。同會は五名乃至九名の會員を以て成る實行委員會の指導する國民委員會にて組織し、中國各主要都市に支部を設置し、本部を上海に置く。各支部は少くとも月一回總會を開き、國民委員會自體は年一回總會を開き、實行委員を選挙す、會員は其國籍を問はず、性別及政治的見解の如何を問はずと稱してゐるが、事實は赤色救援團體にして會員も自ら限定せらる様である。同會々長は宋慶齡にして、目下「ヌーラン」夫妻の釋放、世界反帝同盟極東調査委員來滬後の歓迎及同大會舉行の準備に没頭してゐる。

註「コミンテルン」に於ては革命運動に従事するものに對し物質的、精神的、政治的及法律的援助を與ふる目的を以て、革命闘士救援協會(略稱「モーブル」)、日本に於ては日本赤色救援會)を組織してゐる。中國共產黨に於ても之に倣ひて、一九二五年九月「中國濟難會」を組織し一時非常な勢力を有したが、國共分離後漸次失勢し、一

支那共產黨の近況に就て

九

S

161515

7474

S

161515

7473

九二九年十二月「中國革命互濟會」改稱し、「コミンテルン」及「モール」指導の下に、革命者並同情者の大同團結を組織し、革命大衆に積極的援助を與ふると共に、反革命討滅に全力を注ぐこととなつた。

本項の「中國民權保障同盟」革命互濟會との關係は明でないが、本同盟が「モール」の思想により成立せるものなることは疑なきを所である。

四 華北共產黨の現況

華北共產黨は蘇支復交を一劃期として躍進を試み、天津に於ては天津市共產黨革命互濟會、共產文藝作家王雪人等聯合し、民權保障同盟會天津支部を設立して、言論出版の自由、被捕共產黨員の釋放、積極的宣傳等を企圖してゐるが、天津地方に於ては反共を目標とする國家主義青年黨が相當根強く活動して居る爲之に制肘せられ、且國民政府の共產黨に對する警戒が嚴重を極めて居るので、從來の如き潜行的運動を爲すに過ぎない。然し蘇支貿易が開かれたる爲、從來よりも多額の宣傳費が支出せられあるが如く、幾分

擴大せられんとする傾向にある。但政綱は依然反帝國主義、反國民黨であつて何等の新味無く、南京方面の左傾派と共に、共產黨の公開活動、容共政策に付商議してゐるが、現在の對内對外關係上其實現は至難と目せられてゐる。

又傳ふる所に依れば第三「インター」代表「エ・エ・キズロ」は、昨年來北平に來り赤化宣傳の秘密工作を實施してゐる。「キズロ」は北支に於て紅軍編成を計畫し、既成軍閥を利用して當初は一部を軍閥自身の使用に供せしめ、機を見て是等編成部隊を赤化し、北支に於ける紅軍の基礎を作る爲、各種共產黨團體と連絡し策動を續けてゐる。要するに目下第三「インター」の對支赤化方針としては、既成軍閥の名を利用し、逐次其部下團體を赤化するに在るもの、如く、觀らるゝものがある。

五 共產黨討伐の狀況

國民政府は昨年六月より蔣介石自ら總司令となり、漢口に剿匪總司令部を置き、第四次剿共を實行し、其主力を長江以北河南、安徽、湖北三省に指向した、其結果數箇月を經た

支那共產黨の近況に就て

S

161515

7476

S

161515

7475

る秋季に至り、該方面に蟻據せる紅軍主力に相當の壓迫を加へ、既述の如く徐向前軍、賀龍軍の有力なる一部を陝西省方面に壓出したが、紅軍撤退後と雖其舊地盤には尙其殘黨各所に潜在し、赤衛隊、遊撃隊は民衆を監視して其潛勢力を保持して居るので、徹底的肅清の實は擧つてゐない。

而して湖北剿匪一段落を機とし、昨年末來江西省の剿共著手が頻りに宣傳せられてゐたが、往再實現の運びに至らず、蒋介石は十一月二十四日總參議朱紹良を漢口に殘置して下江し、凱旋將軍として大歡迎裡に入軍したる後、三中全会、山海關事件等内外多端の政務輻輳しあるに拘らず、江西省共產軍跳梁の情況に鑑み、本年一月二十七日再び南京を離れて南昌に赴き、同地に在りては直接剿共軍事の指揮に従事し、漸く昨冬來の懸案たる江南匪軍の討伐開始の運びとなつた。

二月中旬蒋介石は江西、福建、廣東、廣西四省の剿匪軍を動員して、江西共匪主力の擊破を命じ、自ら總司令を兼ね陳濟棠を四省剿匪副司令に、白崇禧、余漢謀、蔡廷鍇を夫

二三

S 161515 7477

々左、中、右各路總指揮に任じたけれども、廣東、廣西、第十九路軍共に之を遵奉するの意無く、僅に省境方面の共產軍の防禦に任じあるに過ぎず、蔣亦北上せねばならぬ狀況となつて南昌を離れ、江西省の剿共は依然何等の進展を見ること無く、却て剿共軍屢々大敗しあるを報せられてゐる。

而かも熱河問題に伴ひ最近中央軍の一部が北上したので、共產軍は各地に蠢動を開始せんとするの徴がある。

六 蒋介石と共產黨との妥協説に就て

蒋介石が江西「ソウエート」と妥協すべしとは、蘇支復交當時より頻りに傳へられたが、二月下旬以來「蒋介石は瑞金、ソウエート」政府の經理處長張建汝及共產軍第三十一師長余完越を南昌に連れ來り、右兩人と同郷にて親交ある元共產黨員周佛海をも同地に招致し、妥協交渉中」等と蒋介石、共產黨の妥協説頻りに傳へられ、而も其妥協の内容としては江西、福建、湖南、廣西（廣東、湖北は除かれあり）の四省中共產派の勢力區域に對

支那共產黨の近況に就て

二三

S 161515 7478

し、試験區域の名の下に共産政治の施行を認容せんとするに在りとか、或は共産軍内も二派に分れてゐて、現役軍人派(實力派)の妥協主義なるに對し、執行委員派(文人派)は主戦論を唱へ、妥協は北方の危急に應ずる一時的手段に過ぎずとの理由で反對したが、實力派は共産軍の實力保全の爲には一時的妥協も可なりと、暫時靜觀主義を執るべしと聲明してゐる等と傳へられてゐる。

一四

然しながら右妥協説の眞偽を穿鑿するまでも無く、共産軍剿共軍の戦闘は依然所在に繼續せられゐるの現状は、之を如實に否定するものと言はねばならぬ。江西省共産軍の現状は必ずしも單なる蔣介石の不在の故に、之と妥協を必要とするが如く事態は切迫してゐない。若し蔣が共産軍と妥協するが如き事あらば、(一)蔣は再び剿匪を口實として江西に引籠り、時局に對する責任を回避するが如き態度を採り得ないと共に、(二)今後剿匪を口實に財閥より軍費を引出すことも困難となるべく、(三)西南其他反蔣派に蔣攻撃の材料を與ふこともなるので、共産軍との妥協に依り蔣の受くる所は利に非ずして寧ろ

害が多いと觀察せられてゐる。

七 支那共産運動の將來

之を要するに「ソビエト」區域及共産軍は、漸次擴大鞏化するの傾向にあつて、南京政府の現状を以てしては、之が掃蕩は殆ど不可能事である。東洋平和の理想實現の爲に驟起せる皇軍に對し、東北地方に於て弓を引く如き不明を速に清算し、力を國內安定に致すべきは目下の支那の取るべき處置如何に對する原案であらう。支那に於て最も大なる問題は進展せんとする紅軍匪問題であらねばなるまい。

而して「ソビエト」區域は今日幸にして蘇聯邦とは地域的には接觸してゐないが、今後萬一外蒙、「トルキスタン」、或は西伯利方面に於て、蘇聯邦と接觸するに至らんか、支那政府独自の力を以てしては、遂には如何とも成し能はざる状態に立ち至り、支那全土の赤化も亦必ずしも絶無とは斷言することが出来まい。四億の人口と無限の富源を有する赤色支那の共産化は世界秩序の大問題である。而して亞細亞を擧げて赤化するとも、我は常に赤化に對する防波堤であらねばならぬ。

支那共産軍の近況に就て

一五

S

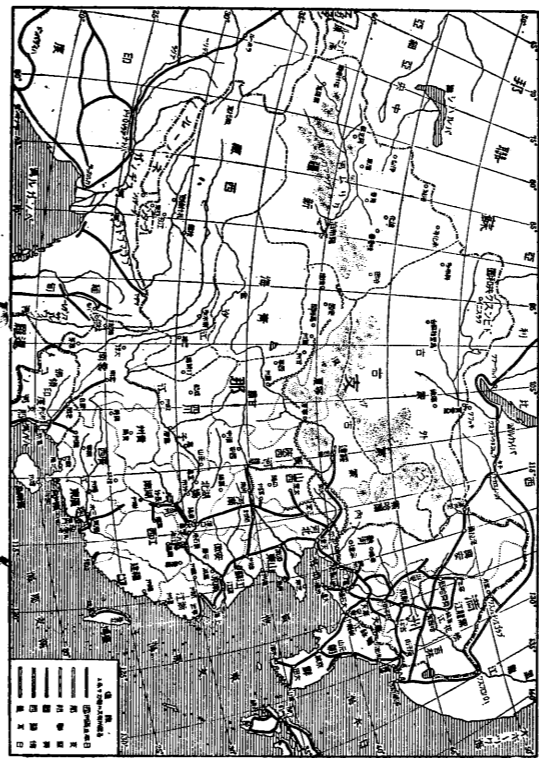
161515

7480

S

161515

7479



支那一般圖

S 161515 7483

REEL No. A-0853



○

主P2

共運

紅軍最近ノ情勢 (自昭和八年十月至同十一月)

概況
 軍事委員長蔣介石ハ十月中旬ヲ期シ第五次圍剿總攻撃ヲ開始スヘク諸準備ニ全幅ノ努力ヲ傾注シ剿共軍事政治ノ督察ニ奔走シツツアリシカ未タ之カ決行ノ機熟セサルニ早クモ紅軍側ハ所謂機先戰法ニ出テ討伐軍側ノ士氣沮喪ノ傾向アリシ爲メ十月二十日蔣介石ハ急遽討伐軍ニ總攻撃ヲ下令シタルモノノ如ク一齊ニ攻勢ヲ執リタルモ實捷困難ナル情勢ニアリ加フルニ今次福建ニ於ケル政變ハ中央討伐軍ノ兵力分割ヲ生セシメ一方中央紅軍ハ福建人民革命軍トノ間ニ相互不可侵協定ヲ密約セルモノノ如ク之等ノ關係ハ紅軍側ヲ有利ニ導キ頓ニ活況ヲ呈スルニ至レリ、
 尙本秋以來全中華「ソヴイエト」區域ハ江西省及其ノ接壤地區並ニ河南、安徽、湖北、湖南、四川、陝西各省地區ノ二大「ソヴイ

外務省

8.12 S 161515 7484

エト」區ニ統制セラレントスル情勢ニ進ミツツアルヲ看取セラレ即チ四川省紅軍ノ長足的發展ト相俟テ湖南、湖北省境紅軍ハ湖北省西部利川ヲ占據シ四川省萬縣雲陽ヲ脅威シ四川省紅軍ト合流セント努メ又河南、安徽、湖北省境紅軍ニ連絡ヲ付ケムトシツツアリ、

江西地區
(一) 黎川、南城附近

1、本夏來蔣介石ハ中央「ソ」區ト贛東北「ソ」區トヲ遮斷ノタメ北路軍及南路福建軍ニ對シ黎川(江西省)泰寧(福建省)ノ狹擊ヲ命シ北路軍第十八軍長陳誠ハ九月中旬以來所屬部隊第~~五~~八師ヲ以テ黎川攻撃ヲ行ヒ遂ニ紅軍第七軍團(新編蕭勁部)ヲ擊破シ九月二十八日漸ク同地ヲ占領セリ、
 2、然ルニヤハ九月ノ交福建省ニ侵入シタル中央紅軍彭德懷(第三軍團)ノ指揮スル主力部隊ハ所期ノ目的ヲ達シ(十月八日

外務省

8.12 S 161515 7485

附紅軍捷報第一號ニ依レハ福建省進撃ニ因リ食鹽三十万斤、現金十餘萬元及大量ノ反物、藥品、銃器彈藥等ヲ掠取セリト云フ。タルヲ以テ光澤、泰寧、建寧（以上福建省）方面ニ又福建紅軍區總指揮第二十二軍長羅炳輝ノ部隊ハ逐次甯化、長汀、連城地區（以上福建省）ニ移動シタル結果前記紅軍第七軍團第二十師ハ福建省延平方面ヨリ返還セル第三軍團彭德懷ノ増援ニ勢ヲ得十月十日突如黎川奪還ヲ企テ猛撃ヲ加ヘ遂ニ討伐軍ヲ撃破シ其ノ勢ニ乘シ十一月中旬南城南豐ノ攻撃ニ移リ南城攻撃ノ如キ討伐軍第五六三九六各師中ノ九ヶ團ヲ粉砕シ鹽二万斤ヲ鹵獲セリト傳ヘラレ爲メニ討伐軍ノ士氣ヲ沮喪シ贛北ノ形勢頓ニ動搖セリ、

3、茲ニ於テ北路軍第十八軍長陳誠ハ南路軍總指揮陳濟棠ニ宛テ「贛南駐在部隊ノ積極的北進ヲ命シ南方ヨリ極力紅軍背後ノ牽制ニ當ラレ度」旨要請電ヲ發セルカ南路軍ハ廣東方面ヨリ

外務省

8. 12

S 161515 7486

ハ後記ノ如ク稍進出セルモ福建方面ハ十九路軍ト中央「ソ」區紅軍トノ間ニ十一月二十日福建人民革命政府獨立前後ニ於テ不可侵密約成リタルモノノ如ク爾來贛閩省境ニ於ケル紅軍對討伐軍（十九路軍）ノ戰用行動ハ中止セラレ南路軍總指揮ノ命令行ハレサル狀況ニアリ

(二) 永豐、興國、尋鄔地方

1、朱德ノ指揮スル紅軍第五軍團ハ永豐南方ニアリテ久シク守勢ヲ執リ逐次後退ノ態勢ニ在リシカ黎川方面ニ於ケル紅軍側ノ活動ト相俟テ十月中旬攻勢ニ轉シ永豐駐防討伐軍第八十三師（師長戴）約三千ハ紅軍ノ包圍攻撃ヲ受ケ殆ト全滅セルモノノ如シ、

2、瑞金西南方興國、雩都、尋鄔ノ各地紅軍ハ南路（廣東側）討伐軍ニ對シ積極的戰備ヲ整ヘ防守ニ努メツツアルモ十月中尋鄔ニ於ケル討伐軍ノ攻撃ニハ戰ヒ利アラス金 嶺ノ山地ニ退

外務省

8. 12

S 161515 7487

却セリ、然レトモ同紅軍獨立第一〇師ハ極力尋廓ノ奪還ヲ期シ十一月以來反撃ニ轉シ戰況有利ニ展開シツツアルモノノ如シ、

(三) 贛江以西地方

1、瑞昌(贛北)ヲ根據トスル孔荷龍所部ノ紅軍ハ陽新(湖北省)ヨリ大冶、鄂城縣域ニ迄其ノ勢力ヲ伸展セシメ確固タル組織ノ下ニ接壤地域ノ擾亂ヲ屢々繰返シツツアリ十月初メ同地紅軍ハ九江附近ヨリ出動セル保安隊及稅警團等ヲ包圍攻撃シ徹底的打撃ヲ加ヘタリ、

2、江西、湖南省境ニ蟠踞スル孔荷龍(贛西北)李天柱(贛西南)ノ兩軍ハ十月中萍鄉ノ線ニ於テ連絡ヲ期スヘク萍鄉ヲ目標ニ攻撃ヲ開始シ之カ爲メ同地ハ脅威ヲ感シ十一月末西露軍總司令部ハ長沙ニ引退シタルモ萍鄉ヲ放棄スルコトハ西路軍剿匪上ノ生命ニ繫ルヲ以テ極力之ヲ固守シ紅軍側ヲ擊破スルト共

外務省

8. 12

S 161515 7488

ニ辛フシテ南北兩紅軍ノ連絡ヲ中斷シ居レリ、然レトモ孔荷龍軍ハ鄂南ノ「ソ」區ヲ維持スルト共ニ長沙迄約八十支里ノ地域ニ進出シ同地ヲ脅威シツツアリ、

四川地區

1、湖南、湖北省境

湘鄂西「ソ」區ニ蟠踞スル紅軍賀龍部(兵力一万)ハ本春以來鶴峯(湖北)ノ根據地ヲ放棄シ湖南北境地域各所ニ轉戰シ其ノ手中ニ培養シ來レル四川省酉陽、黔江、沙道溝、李家河ノ地區カ半「ソ」區化セルヲ奇貨トシ十月中同地方ニ移動セントシ一方四川北方ヨリ南下シ來レル紅軍徐向前部ト合流スヘク策シ湖北省利川(四川省境)ヲ占領シ以テ四川省内ニ侵入シ萬縣、雲陽(四川省)ヲ背面ヨリ四川紅軍ト呼應シ攻撃セントセシモ四川剿共軍劉湘部ノ爲メ阻止セラレ利川一帯ニ跳梁シツツアリ

外務省

8. 12

S 161515 7489

2、湖北、河南省境

湖北省安陸、襄陽、南漳、保康一帶ニ勢力ヲ有スル紅軍（主トシテ土匪軍）ハ豫鄂省境棗陽、桐柏、新野ノ地域ニ跳梁セシモ逐次西方ニ移動シ陝西、湖北省境ニ久シク蟠踞スル王泰ノ土匪軍ニ合流シ王泰部亦四川紅軍ニ統制サレントスル狀況ニアリ、

3、河南、湖北、安徽省境鄂豫皖「ソ」區紅軍（曠繼部）ハ其ノ後變化ナキカ如シ、

4、四川省

湖南、湖北ニ於ケル紅軍賀龍部、王泰部ノ四川省紅軍（徐向前）ト合流セントスルコトニ依リ四川「ソヴイエト」區ハ頓ニ活況ヲ呈シ湖南、湖北ヲ抱擁スル大「ソヴイエト」區建設ヲ目論見居ルモノノ如シ、之ニ反シ四川討伐軍ハ同省「ソヴイエト」區ノ奪回ニ成功シ

外務省

8. 12

S 161515 7490

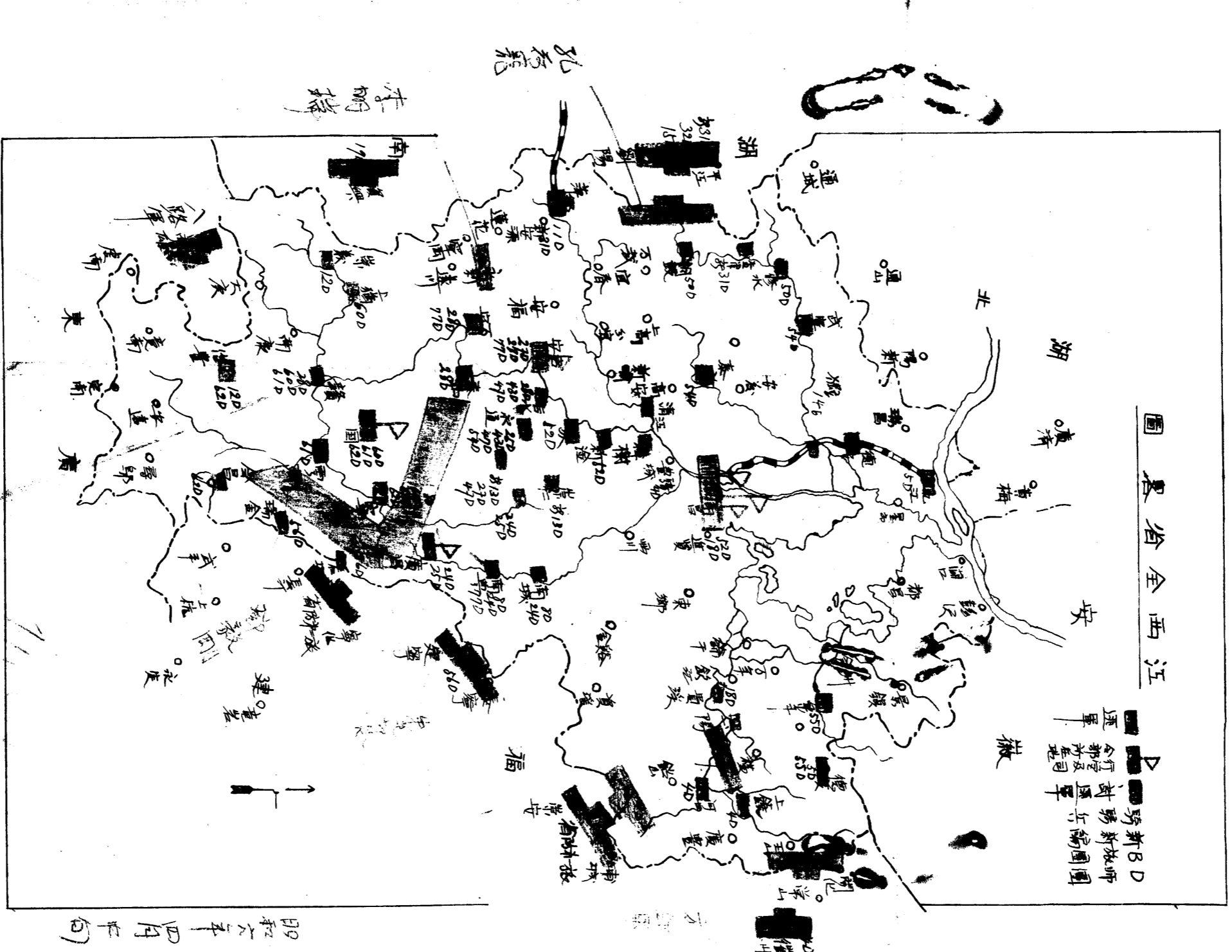
ツツアルカ如ク宣傳シ居レルモ名ノミニシテ部内各路軍ノ統制成ラス爲メニ積極的進攻ニ出ツル形勢ナシ、然ルニ紅軍側ハ一部ヲ以テ開縣占領後雲陽、奉節方面ニ又他ノ一部ハ鄞都（萬縣、重慶ノ中間揚子江岸）附近ニ出沒シ前記賀龍軍ト接近ヲ圖リツツアリ。

(了)

外務省

8. 12

S 161515 7491



S 161515 7492

